



神経で感じたことが、どうして脳に伝わるの

神経が電線のように脳までつながっているため

熱いとか冷たいとか、痛いとかいうような感じは、脳で起こります。しげきが皮ふにふれると、そこから、神経が電線のように脳までつながっていて、脳にとどくと感じるのです。脳や神経をつくるもとになっているのは、神経細胞です。神経細胞は、神経単位または「ニューロン」とよばれています。

体にふれたものや、脳からの命令は、ニューロンから出ている長い糸のようなものを、電気信号（インパルス）となって、伝わっていきます。

ニューロンとニューロンのつなぎめを「シナプス」といい、ここでは、ニューロンを伝わってきた電気信号が、「神経伝達物質」という特別な物質に変えられて、となりのニューロンへ受けわたされます。

二つの神経 - 脳神経とせきずい神経

脳から出ている神経を脳神経といい、目・耳・鼻などにつながっています。そこからニューロンで、情報は直接脳に伝わります。せきずいから出ている神経をせきずい神経といい、手・足など、体じゅうに広がっています。せきずいのところに、ニューロンとニューロンのつなぎめの「シナプス」があり、情報は、ここでニューロンからニューロンへ、バトンタッチされて伝わります。（監修・保志 宏）

